

人づくりセミナー(第2回) 産民学官・政策課題共同研究 中間報告会 2016

彩の国さいたま人づくり広域連合では、県・市町村・企業・NPO及び大学等の協働で、埼玉の未来を共に考える「産民学官・政策課題共同研究」を実施しています。

今年度のテーマは、

超高齢社会の包括的タウンマネジメント

多様な働き方「埼玉スタイル」の推進

の2つ。5月からスタートし、2月までの約10か月間にわたり研究を行い、具体的かつ実践的な政策提言を目指しています。

このたび、研究会の中間報告として、これまでの研究内容や、今後の方向性などについて、各チームから発表を行いました。

また、超高齢社会のまちづくりプロジェクト「柏プロジェクト」でご活躍中の前田 展弘 氏 をお招きし、超高齢未来の展望と課題についてご講演いただきました。

以下に、前田先生の講演と産民学官・政策課題共同研究の中間報告をレポートします！

■目次

I 開催概要

II 講演の概要

前田展弘氏「超高齢未来に必要な新たな地域創造の視点」

III 産民学官・政策課題共同研究 中間報告

I 中間報告会の概要

【日時】平成28年9月9日(金) 13:15~16:30

【会場】自治人材開発センター 3階 講堂

【参加者数】131名 47団体

行政 109名 30団体

企業 15名 11団体

NPO等 5名 4団体

大学 2名 2団体

【内容】

1. 講演

[演題] 「超高齢未来に必要な新たな地域創造の視点

~柏プロジェクト及び先駆的事例から」

[講師] 前田 展弘 氏

東京大学高齢社会総合研究機構客員研究員

株式会社ニッセイ基礎研究所 生活研究部主任研究員

2. 産民学官・政策課題共同研究 中間報告

[テーマ1] 超高齢社会の包括的タウンマネジメント

[テーマ2] 多様な働き方「埼玉スタイル」の推進

【参考】平成28年度 産民学官・政策課題共同研究の研究員数等

■超高齢社会の包括的タウンマネジメント

企業・NPO 9名、県 11名、市町村 9名・・・合計29名

■多様な働き方「埼玉スタイル」の推進

企業・NPO・大学 8名、県 5名、市町村 6名・・・合計19名

■参加民間団体の内訳

[企業] 武蔵野銀行、凸版印刷、都市再生機構、日本電気、富士通、
ローカルデザインネットワーク

[NPO] MCAサポートセンター、都市づくりNPOさいたま、ワーカーズコープ

[大学] 獨協大学 地域総合研究所、芝浦工業大学

II 講演の概要(人づくりセミナー)

【演題】「超高齢未来に必要な新たな地域創造の視点
～柏プロジェクト及び先駆的事例から」

【講師】 前田 展弘 氏

東京大学高齢社会総合研究機構客員研究員

株式会社ニッセイ基礎研究所 生活研究部主任研究員

【講演のダイジェスト】

本格的な超高齢未来の到来が目前に迫っている今日、日本は世界に先例のない高齢化最先進国として、その動向が世界から注目されている。

前田先生は、本講演で、超高齢未来の展望と課題を解説された後、現在、先生が取り組んでいる事例として、「柏プロジェクトが進める“長寿社会のまちづくり”」、「住民と共創する新たな地域拠点づくり“Living Lab”」について説示され、新たな地域創造の視点を提示された。

新たな地域創造を実現する視点とは、その目的を、長寿時代のサクセスフル・エイジングに貢献することを前提とすることにある。その目的を達成するために、「活動のエンジン」となる人や組織の存在、「自治体の強い関与」による地域の中での展開、そしてそれら住民と事業者等を円滑に結ぶ「中間支援組織」の積極的な活動が重要となる。

前田先生は、超高齢未来の理想とは「そこに暮らす国民（住民）一人ひとりが、安心して豊かな“長寿・サクセスフル・エイジング”を実現できること」であるとし、「笑顔

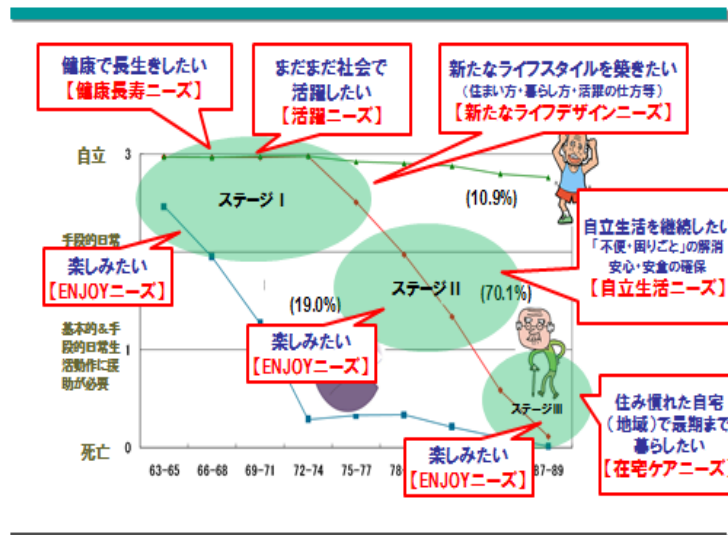


溢れる理想の未来を築けるかどうかは、過渡期である今にかかっている」と述べる。

講演の概要は以下のとおり。

【超高齢社会の展望と課題】

＜参考＞豊かな長寿の実現に必要な高齢者ニーズの「塊」



高齢期には健康状態・自立度による3つのステージがある。それぞれのステージの課題に対し、ステージⅠでは社会参加の継続による健康長寿・活躍等のニーズ、ステージⅡでは自立生活の継続による安心安全確保等のニーズ、ステージⅢでは在宅ケア等の住み慣れた環境で最期まで暮らしたいニーズがある。

それらを充足させることにより、サクセスフル・エイジングを実現し、超高齢社会の人口構造に適した健全な社会づくりが達成される。

【柏プロジェクトが進める“長寿社会のまちづくり”】

柏プロジェクトは、千葉県柏市の豊四季台団地をフィールドにした超高齢社会対応のモデル地域開発である。

「Aging Place (住み慣れた地域で最期まで自分らしく老いることのできる)社会の実現」をテーマ・コンセプトとして、「生きがい就労事業」「地域包括ケアシステム」「歩いて暮らせるコミュニティ」など、高齢社会の安心で豊かな暮らし方・まち

柏市における「長寿社会のまちづくり」プロジェクト



のあり方の実践を行っている。

前田先生はこの中の「生きがい就労事業」を担当されている。仕事がある、という長年慣れ親しんだライフスタイルへのニーズを満たすことで、シニアの方が自然に外に出ることを支援している。シニアの方の、無理なく自分のペースで楽しく働きたいというニーズを満たすとともに、その力を地域の課題解決にも活かしていくことを目的としている。これまでに5領域9事業を開拓し、延べ230人超の雇用を実現している。

＜参考＞高齢者就農の様様



4. 生きがい就労開発のプロセスとポイント

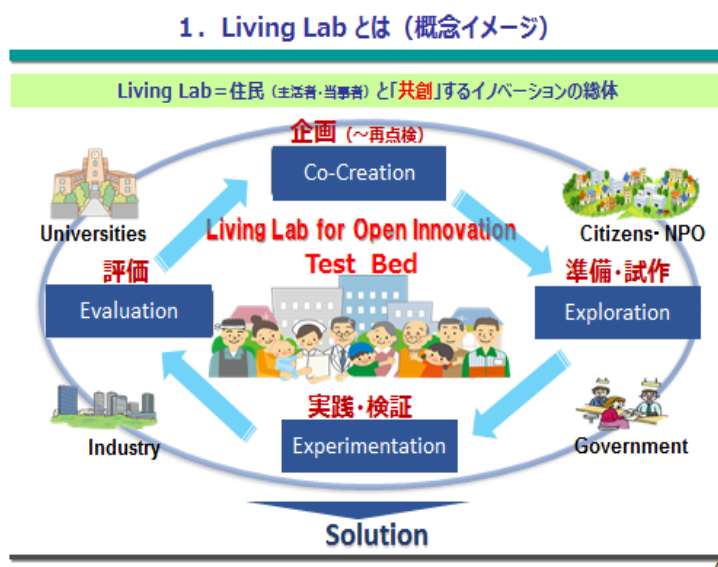


【住民と共創する新たな地域拠点づくり “Living Lab”】

Living Labとは、住民と「共創」するイノベーションの総体である。その地域の課題について、そこに住む住民が中心となって解決をしていくもので、各地域に合ったテーマを自由に設定する。この共創によってイノベーションを加速させ、活力と魅力あ

る社会づくりを実現する動きがヨーロッパで急速に広がっており、日本でもその活動が始まりつつある。

この「Living Lab」の仕組みを活かすことで、それぞれの地域で生涯現役社会づくりを実現していく。



前田展弘氏の略歴

【経歴】

- 1994年 早稲田大学商学部卒業
- 2004年 (株)ニッセイ基礎研究所入社
- 2006年 東京大学総括プロジェクト機構
ジェロントロジー寄付研究部門・協力研究員
- 2009年 東京大学高齢社会総合研究機構・客員研究員

【委員】

全労済協会「2025年の生活保障と日本社会の構想研究会」委員(2014～15年度)、生協総研「2050研究会」委員(2013～14年度)、財務省財務総合政策研究所「高齢社会における選択と集中に関する研究会」委員(2013年度)など多数歴任。

【著書】

『2050年 超高齢社会のコミュニティ構想』第3章「生涯現役社会を創造する地域社会の改革」(2015年、岩波書店)、『持続可能な高齢社会を考える』第2部第3章「高齢者市場開拓の意義と期待」(2014年、中央経済社)などを執筆

Ⅲ 産民学官・政策課題共同研究 中間報告

「超高齢社会の包括的タウンマネジメント」研究会、「多様な働き方『埼玉スタイル』の推進」研究会から、それぞれ30分ずつ中間段階での研究内容を発表した。

発表の主な内容は以下のとおり。

■「超高齢社会の包括的タウンマネジメント」研究会

[コーディネーター] 藤村 龍至 氏(東京藝術大学美術学部建築科 准教授、RFA主宰)

昨年度の「『埼玉県の空き家』の課題パターン抽出とその解決策の提言」研究会による変動通勤圏(都内通勤率10%以上25%未満の地域)において潜在空き家が多いという課題や、まちのマネジメント機能の構築と強化に関する提言を受け、今年度は、まちのマネジメント機能を都市計画政策と福祉政策の両面から研究している。

今回の発表では、人口老年化に着目した「埼玉県 高リスク ニュータウン ランキング」を発表。これは県内ニュータウンを老年化指数(老年人口と年少人口の比率)等により評価したもの。1位 鳩山ニュータウン、2位 ラフィーナ幸手、3位 日高こま武蔵台。高リスク ニュータウンは、西武池袋線沿線、東武東上線沿線の県西部の丘陵地に集中している。

この他に、地域包括ケアシステムの運営実態(運営的課題)、事業企画に向けた事例分析等を発表した。



■「多様な働き方『埼玉のスタイル』の推進」研究会

[コーディネーター] 松元 一明 氏((一財)地域開発研究所 主任研究員)

無業者のうち就業を希望する方は4分の1もいる。この「働きたい」という希望を叶えていく必要がある。このような潜在的労働力を阻む壁には、低賃金や定年などの労働条件、産休や育休からの復帰者に対する労働環境、若者の新卒一括採用などの社会的要因、雇用側の理解不足などが考えられる。

そこで、「若者」「子育て世代」「障害者」「高齢者」の4つのターゲット層を設定し、埼玉独自のオリジナリティあふれる政策提言を目指す「『働きたい』『働きやすい』『働いてほしい』を叶える『埼玉スタイル』」を研究している。

今回は、4つのターゲット層(「若者」「子育て世代」「障害者」「高齢者」)ごとに、現状、課題、政策案の方向性、今後の展開を発表。

例えば、「若者」では、政策提案の方向性として「ライフステージに応じた若者の就職支援」を発表した。



両研究会とも、中間報告で皆様から頂いたご意見を参考に、後半戦もより良い研究成果を出すことができるよう活動を続けていきます！
ご期待ください！！